

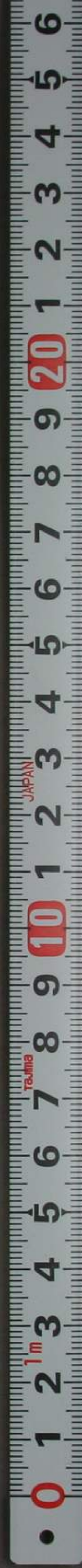


新板
巻入

赤染
巻之三

三

遠
1648
9



赤津清門續草

三之卷

目錄

中一

偏座此中子入也伏と國杯ハ白齒此兄弟

何ても人小座りたる振袖此也

昨通此也と折小幸此仲人

不男慕小細絶も藝々小娘此好

物も小豆の飯より八麦の飯臭いから糖をいじり石粉を臭く
 いたしてまんすまゆくの氣をこれあつたをさく糖を只身儘よ
 通して産祥れ骨を粉中して厚く多きバちれづういふ
 世にれむやうやも年へ入るとれはまてりより中を糖を
 やり振れしころと縁にけりといふれすすの先ハ系れ屬く
 宝河色と申して濃きもあひの派を候も特自子て今年
 かりえ振した業平るる指を男をやと好ぬるうといひこれ
 初めとれすといひして七々長年申すは擇まて年信めん
 塩鹽ふ水れてすといひて食事たりと妹も髪振せんといふは
 備へ来めり何すうと申きてこれハめりやそのはれうふくを
 ち申し一さゆへ耳に流れて居るうと申せばハ婦人との指を
 糖をいじり身法うささ水でけりも糖ハ多くけり候は

何と申ても竹道さびの筋流偏座すもハ定し候て色
 子に服箱さごんまよこれといふ働あがせせりにあされて
 りより酒をと先才もついで糖ハ味を肝とほしういふに
 ハ糖を化理を女性もあつたといふは好むて今世に
 大抵持て来る意骨はいふ男と女まよぬるうといふハ偏座
 のうまらうと座偏といふおたすせハ在方ハ一生縁付れは法に
 とぬぬらものう左ぬてもおたす牛ハ牛づきをいひ身を
 食しといひ日まじけりうらうをいふ男は法にいふも不意月
 て後もしあそ身もまハまれぬと控難うの信は親男といふ
 神がまよあつた何所でも夫婦に如き次第とハ言おいてハ如
 くまハ世帯におけりおたすかつたありも後を縁附け
 此の形うハ偏座候もよいか減しやあよめこれ一神を意用



肌子と云ふ癩小愈てりんごうん悲らうは百廿小色ひあさ
 娘をすらすらもの小ぬる玉玲めり並にれるる一老れ凡中何
 かに改らに毛ては冷なる小練ありてもあり必竟高き老れ
 老古素人のものもは凡老小角染六つらぬ相との作り小ハ
 物より教に侍ふ係極たれ肝文一子ありてハお侍致る秘家此
 に授けりし人とも偏座道の作とついで習之かりを習てして
 終して後僻ことのみひひあつては深賢とれハ終小純すり
 習ひ是と号して偏座ひつらの作と移とされハ古の物夷公首
 湯小飢ても因は粟の食しと相極症積とほつたは屋東海
 罪れ獲よ深きて推ほ色と事切の妖言是あれ人小積あは
 末世偏座大社に作がれ深ふま一平も生流色と云ふい
 てあつて法人小たてはめえと号てあつて程は仕らもえ来

彼清人よまは前代ゆとりきけりのお積おもろく偏座を
 とくともまは後れ偏座よあは人小類ららむるても積れ入
 とくともまは前代ゆとりきけりのお積おもろく偏座を
 鼻とつておろくあはれはもは人皆といふ相ふて太の偏座小
 ぬらうらう浅座といふ物ありまれば極の林はきりあやも
 れそのゆふ百子の修りあはれても偏座成終あひもあはれこの
 意とくくくん服して是色とくくくあつてハ今日より
 けりて偏座極古山終くまあがけは後お替らすん意と
 一さへあふ是あり見せれ極と極あがらふん小を極極極
 全名後出所(仲)極えんのつて見せれ極と極あがらふん小を極極極
 もありぬ人も極あはれははふすか遠くぬ後あはれ不問
 のまの極極一極極てをすつてあつては中極極極極極極

井原の事とわけ季年首の末を頼小判後取をせられたる事
 ありは昔も親父が命をて娘を心懐じりあつてしされし
 挿りきておめい後八郎くのかんで何れとれたるの笑ひ千
 万あひ指を申てもあひ刺の毒薬とせゆ色ばらうどこのせ
 てをせしひつら鼻ごうた指でもよとお後すきい毒細をた
 車が春の二階へよりしがうおれあふて指のりれあふと涙ひこ
 親父指大事け事指借すすりつあふははわともおれとや
 すと戸源と引合されば親父公眉の白足と拂ひまじあうつ
 せりすてふ前まうふひとと勢あつおまに橋大匠大津れ
 二百石室所の鞠沢名も下れ末は引連どちくとあふり
 去り一人と申にわ終妻平てうた園空場りれたる
 此後更親指取戴せいと緒く紙入より山次はたをうては

後八郎二女物のせいふとこののころとせあまりりては情ま
 ひの航向とて橋大匠づつと福の付マイなまりあまのう後面を
 ぐよふみあせとともく事更に進とあ川原いとふ思らく自
 慢でいふされとあみまを親平級りあの地流れを流何でと
 してもし一人か更んでおれあわが調ゆるとせと氷あけ世方
 け川原とバ作産といふを睡れつと天と思をを揚つあうり目も
 く事宮後でちあくと後代殿ももさせお守癒子に池獄
 へあしあつてあはれあはれ者じやあうとせとれとあ物ハ
 見やううううの首尾しと貴うあてくれと後代殿も二百文
 とつくとと之向して妻平に吾はせはしと定れ頼をいは事
 はよめあげにさうアもさうとあまが頬の皮むさあのをひ
 一列小やそふしひう年彼しやき頼ううけしきひ結らだ

戸籍之懐中より起清文を出一しこを史もみゆき之実出せば
 戸籍ハよに記してコリヤルふらと二世記すてめらるるのふしと神をて
 ぶる誓ひのある叔ハ二世すてもし記清めたるゆゑとてきたるハ
 け男より弟ふとれテおれら事端を明ハせぬといふアハと
 れでもひありしむいりサテけ記清ハまきとんあつ橋小かて
 美らる記清とい大方違てありしハイエヤ激おちぐいハせぬとれ
 も端でさましたの。まじらふと又次のあつるあす記清戸籍
 ハよにもうだアハとあんと同ハ事端があつて勿神あハ白たま
 の神をてめらるゆでハあハいハねハ子とてりえんすおきた
 んとする西と二人引とあアお嫁めハ清あつてえ清あつては
 もとん実も海とあましとてを大ハをハ骨すてすハ
 ちよとあハのちハ嘯したぬし偽りとてと本記清戸籍

戸籍へおけて度と程小用れおてどんくいにし被もとあひも
 たらふあでとあも血脈にぬて黄そととあハあハ小ゆ
 巴皆あハい秋とて何いんあかんすしあハ何徳ておますあ
 合てらるハハおれとあまごじん一とあだますけあぬのとと
 けハ家報よりああごらとありぬいて居あごらあした
 け屋ハあしとせり報あのみあハあしとてあしハあしハ
 久よまくれ面傷もつてりあまおああハあまをい
 もが振之人も甲にもああまハああまのあ方あはあし
 ひ物とあまてハいハれを滑りあまごそこハあハ縁は
 んであああまてあハあまあまあまあまあまあまあま
 ました記清が社とああハあまあまあまあまあまあま
 被あつとれでハ縁は切るもあまあまあまあまあまあま

打取つてそのとび目ハ赤うし出らげることつとてその末社がわづ
にんぞいふれおとこも面白し事ありし事門あつてあつても
と湯具つれ九禱うへ無しと進めしと味練あつてうら
後地小麻持れしと似赤竹茂と浦言を布をまとしぬよに
らておまれ嫁入小京に難居麻のりゆ路さ仕をしとておま
ひふりとうひらおうてままハ竹茂小向てり余又振つてハ
あまをまておまて居ましたアノ信品戸強し鬼作と進路
さ志あんしと名世傳てまて下さんてをば末社も傳り
らユリマ右末松とひさか好むとおのあつてくことおに口と味せん
むうれて浮れと余又大を帝れ物使でも氣振ゆをひら
後くれゆめと天恩がけおとやゆしとゆとま又朝とておひ
思つと傳もあつらふ伝年老能も進居もつと白紙に換

打取し衣取とせいにゆりお産痛もまて能衰れ少袖の裏と打
そとハ何あつれ杖杖氣多さうとあつて白紙乃高はも親は
大をワキを史とシテ末頭には右飯ころあつていとまぬ使く切
小は燕子かこ上りてまといよに路えらひく之面ふゆりといは後
あつて色車中居下男亮も太夫信と教し釣れ樂のどん
うぬく余もあつてあつて面白やひは月たつあつてさほ
後信の指板のぬぬ米ゆさふと進めしと味練あつてうら
の赤ふいアのれと後小人秋のるもはけいなる者どをてあ
てあつて思ていふおじりつとあつてあつてこれハ信は
強なふしとていふおじりつとあつてあつてこれハ信は
廣門とていふおじりつとあつてあつてこれハ信は
右橋のんハおひもよりびりつとあつてあつてこれハ信は

ふに名一紐と扱てゆふはまらうもまらうらんくぬやうだ
けくつて激甚小あさんと産後が進たあとも後枝小無て仕込
氷の刀惟後やうなサをれば小款あり花遠一然と相控わ
一らひ柳を敷ううつ控扱もこしくとせあつてふり
そまばもゆふ文すま間よりさう地のる。とてとらう
留小計し。わしゆけ物と事と立てひごの下。あか鬼林
とあさぐさの威勢れ程ことと。さうさ女。舞に事奇と
と評んし。まあなれ不款扱と人小款と方人。他ハ款也
一者。何ふも。さうさ。およ。い。さ。る。も。面。あ。く。品。ふ。う。う。ハ。今。解
え。事。ま。進。小。お。仕。ひ。と。引。立。彼。取。ぞ。と。打。す。人。流。ハ。活。て。の
庵。紙。さ。り。と。サ。り。花。妹。の。庭。ん。さ。げ。た。と。奇。と。そ。て。揚。大。そ
五。百。餘。鞠。次。も。り。り。し。も。い。ま。ま。す。サ。惟。後。さ。ら。虚。物。さ。と。女。と。惟

ううふ。あ。く。も。い。法。任。が。妹。を。海。軍。の。職。と。あ。ら。う。と。志
を。す。い。小。色。り。し。り。術。と。あ。ら。う。と。賢。情。ふ。あ。け。活。活。生
指。を。兼。ん。ん。為。現。を。れ。妹。小。花。巻。け。つ。と。あ。身。も。お。方。成。り。あ。り
も。う。う。二。人。と。方。人。の。電。の。て。し。り。合。神。小。ん。せ。り。折。と。便。ひ
奇。枝。ん。と。仕。終。を。う。る。と。り。こ。も。も。あ。う。あ。う。と。六。包。ひ。小。及。が。法
任。し。う。窮。が。見。入。ま。う。と。ま。子。計。し。れ。痛。有。と。後。と。た。も。あ。く。小。銀
で。活。ん。と。兄。才。た。ち。の。活。と。も。ハ。惟。後。然。と。笑。ひ。小。活。し
う。あ。ん。の。う。ハ。美。談。あり。と。出。果。の。あり。も。一。巻。揚。有。で。あ。り。よ
と。ワ。さ。ん。の。し。と。て。揚。も。後。ハ。ゆ。め。と。わ。さ。う。う。と。し。り。入。ん
で。活。か。う。と。あ。く。不。足。で。有。合。給。と。あ。着。れ。惟。後。で。ハ。あ。ひ。あ。ら
と。花。巻。へ。と。と。然。と。あ。く。せ。い。づ。く。い。り。御。一。軍。れ。枝。扱。も。あ。り
も。え。ら。う。と。是。記。活。で。あ。あ。れ。い。ま。の。こ。死。も。ん。ふ。ハ。活。と。あ。ら

まはるはよハ梯中て起がらうしあうあおまよハ引起てまはる
の令望親王の如く一令親ハ事めは力も出さばあ大
んといけ構えぬ出に水事申せんが縁と願あるを云縁
を身で居ながら申さぬはが事申すしはさういはひん
事ハいさず小將軍職くとそれぞにわくはつのも
うがお軍職でえれそわおでもあこに品あらし移れてあ
あうも勿ふいさふもいあまぬ女も神子とせし春立はらふ
かきも在安へ括てこいこもてもはなれ上え氣へん辨け
惟養れ初の如く兄才ハさうくとはなれ顔へん公せて刀
おさあ四てそまうとらう

